

1. 主な研究内容について

- ・フレイルを中心とした老年症候群への対策を検討するための疫学研究を行っています。健康行動、特に身体活動の変容や継続に焦点を当て、それらをサポートする要因や介入戦略について、コホート研究やランダム化比較試験により調査しています。
- ・対象者は地域在住高齢者が中心ですが、65歳未満の中老年者を対象に、糖尿病をはじめとした慢性疾患のセルフケアに関する研究も行っています。
- ・また、自治体との共同研究として、介護予防事業の効果検証に携わっており、社会課題解決に資する研究成果の創出を目指しています。

2. 主な共同研究先

筑波大学介護予防研究室、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター予防老年学研究部、富山県立大学工学部／看護学部、産業技術総合研究所人間拡張研究センター運動機能拡張研究チーム、兵庫医科大学予防理学療法研究室
大阪府羽曳野市、豊中市、熊取町

3. 今まで指導した学位論文名

〈博士論文〉

なし

〈修士論文〉

2024年度：『Association of Frailty Assessed by the Kihon Checklist upon the Readmission of Older Patients with Heart Failure』

『Health literacy and patient-reported outcomes in preoperative patients undergoing lumbar spine surgery: a cross-sectional study』

4. 主な論文

- ・ Uemura K, Kamitani T, Watanabe A, Okamoto H, Saho K, Yamada M: Active Learning Through Video Conferencing to Maintain Physical Activity Among Older Adults: A Pilot Randomized Controlled Trial. J Aging Phys Act 2024;1-9.
- ・ Uemura K, Kamitani T, Watanabe A, Okamoto H, Yamada M: Association between community-level health literacy and frailty in community-dwelling older adults. Aging Clin Exp Res 2023, 35(6):1253-1261.
- ・ 上村一貴, 山田実, 紙谷司, 渡邊敦也, 岡本啓: 高齢者のヘルスリテラシーが2年後のフレイルの有無に及ぼす影響—前向きコホート研究—. 日本老年医学会雑誌 2021, 58(1):101-110
- ・ Uemura K, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kim MJ, Kurita S, Ishii H, Shimada H: Predictivity of bioimpedance phase angle for incident disability in older adults. J Cachexia Sarcopenia Muscle 11(1):46-54, 2020
- ・ Uemura K, Yamada M, Okamoto H: Effects of Active Learning on Health Literacy and Behavior in Older Adults: A Randomized Controlled Trial. J Am Geriatr Soc 66(9):1721-1729, 2018

5. 現在の指導している大学院生数

M1:1名、D1:1名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

研究の方法論に関する学習からデータ収集、論文での成果発表まで、主体的に取り組める方を希望します。

フレイルや行動変容をテーマとした研究が多く行われていますが、対象とする疾患や領域は特に限定しません。所属施設をフィールドとした研究、または研究室のプロジェクトに参加する形での研究、いずれの形式でも可能です（応相談）。ご自身のフィールドで研究を実施される場合、専門領域の知識習得は基本にご自身に委ね、教員は研究計画や分析をサポートします。